

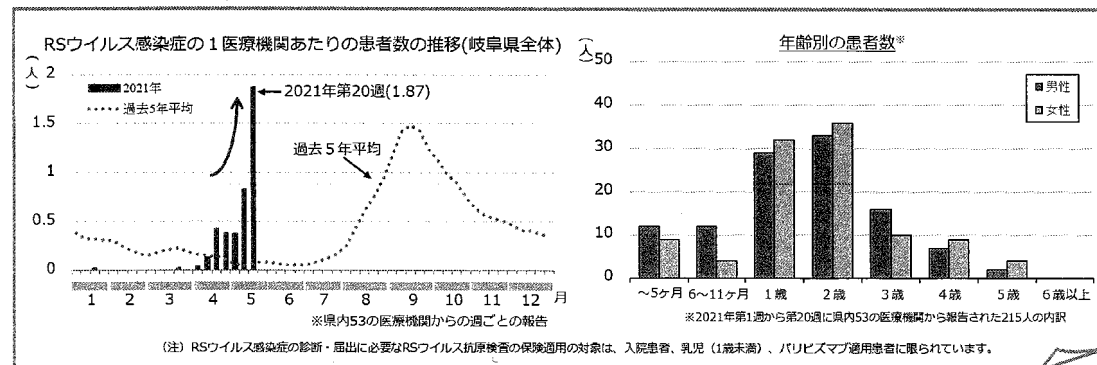
ぎふ感染症かわら版

令和3年5月28日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

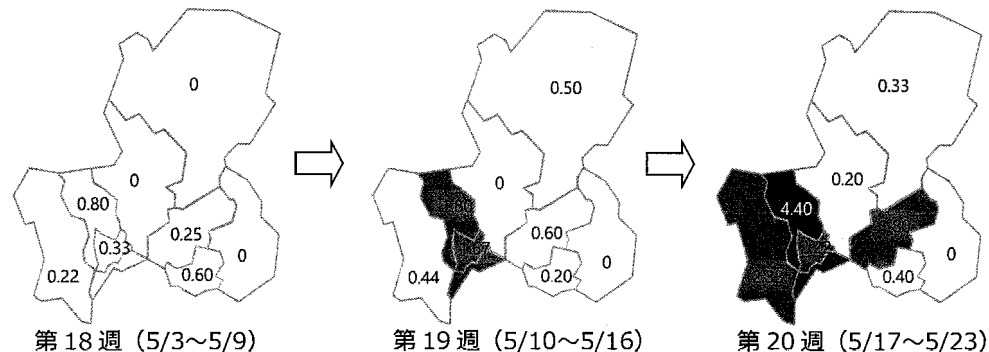


RSウイルス感染症が岐阜県内で流行しています！

令和3年4月23日付けの当かわら版で、全国的なRSウイルス感染症の感染拡大をお伝えしましたが、現在、岐阜県内において同感染症が流行している状況です。例年秋以降に患者数のピークがみられましたが、2021年は第20週(5月17日～5月23日)の時点で過去5年平均の最大値を上回りました。今後これ以上の感染拡大を防ぐため、次ページを参考に感染予防対策へのご協力をお願いします。特に乳児、基礎疾患をお持ちの小児もしくは高齢の方など、重症化リスクの高い方がご家族におられる場合は、十分な注意をお願いいたします。



岐阜県内(保健所管轄毎)の1医療機関あたりの患者数の推移(2021年)



色	範囲(1医療機関あたりの患者数)	範囲の根拠
白	0.40未満	過去5年データ※の50%値未満
薄黄	0.40以上0.89未満	— 50%値以上75%値未満
黄	0.89以上2.40未満	— 75%値以上95%値未満
黒	2.40以上	— 95%値以上

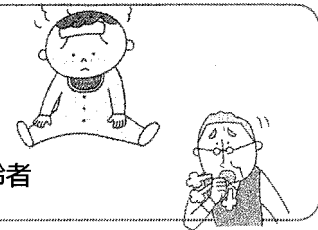
※2016年～2020年の保健所別の0.01以上のデータを標本とした。

RSウイルス感染症って、
どんな病気？

RSウイルス感染症は、赤ちゃんに注意が必要な呼吸器の感染症です。ほぼ100%の人が2歳までに1度は感染するとされていますが、感染後も生涯にわたる免疫はできないため、何度も感染と発病を繰り返します。症状は、発熱や鼻水などの軽いかぜ症状から重い肺炎まで様々です。はじめて感染した場合は重くなりやすく、特に赤ちゃんでは細気管支炎や肺炎などの重い症状をおこしやすくなります。

RSウイルスの感染に注意が必要な人

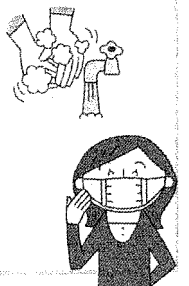
- ◆ 生後6か月までの乳児
- ◆ 心臓や肺、または免疫不全の基礎疾患をもつ小児
- ◆ 慢性呼吸器疾患(ぜんそくなど)の基礎疾患をもつ高齢者



どうやって
予防すればいいの？

感染している人のくしゃみや咳などによる飛沫感染、あるいはウイルスの付いた手指などを介した接触感染によってうつりますので、一般的な予防が大切です。家庭内で感染が広がりやすいため、赤ちゃんや持病をもつ高齢者のいるご家庭では、次のことに心がけ、感染予防に努めましょう。

- 石けんを使った手洗いと、アルコールによる手指の消毒をおこないましょう
- かぜのような症状があるときは、できるだけ赤ちゃんや高齢者と身近に接することを控えましょう
※年長のお子さんや大人の場合、RSウイルスに感染しても、軽い症状ですむことが多いため、気づかずに赤ちゃんにうつしてしまうことがあります。
- 咳が出るときはマスクを着用し、咳エチケットを心がけましょう



新型コロナウイルス感染症と違う点は？

新型コロナウイルス感染症は高齢の方の重症化リスクが高いと言われていますが、RSウイルス感染症は逆に乳児及び小児の重症化リスクが高いとされています。そのため乳児及び小児と身近に接する際には、自分が感染しているかもしれないという意識を持って、十分注意を払うことが重要と考えられます。



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

